

2022 年度決算について（概括）

2022 年度は第 2 次中期計画の最終年度にあたり、教職員が一体となって財務改善計画の達成に向け努力いたしましたが、収入面では 2022 年度の大学入学者の減少を主因として学生生徒等納付金収入が計画を 196 百万円下回り、また、2023 年度大学入学者の減少により前受金収入が計画を 163 百万円下回りました。寄附金の獲得を図ったことにより、寄附金収入が 26 百万円計画比増となりましたが、収入全体で計画を 162 百万円下回りました。支出面においては、人件費は計画通りとなりましたが、教育研究費支出、施設関係支出、設備関係支出の削減により支出は計画を 34 百万円下回りました。減価償却引当特定資産の繰入 50 百万円も昨年度に引き続き実施しました。

以上の結果として、当年度の資金収支差額は、175 百万円の赤字、翌年度繰越支払資金は 8 億 6 百万円となりそれぞれ計画比△129 百万円、370 百万円となりました。引き続き本学を取り巻く環境は大変厳しいものがありますが、第 3 次中期計画の財務改善方策の着実な実行により、収支均衡のとれた安定的な学校運営を目指してまいります。

以下 2022 年度決算について財務三表に沿って概括します。

1. 資金収支について

資金収支計算書は当該年度に行った教育研究活動およびこれに付随する活動の全ての収入と支出の内容及び、支払資金(現金・預金)の顛末を明らかにするもので、企業会計ではキャッシュフロー計算書に相当するものです。

(1) 収入の部

法人全体では、資金収入合計 2,949,106 千円に前年度繰越支払資金 981,552 千円を加えた収入の部合計は 3,930,658 千円でした。学生生徒等納付金収入は、大学の学生数減少を主要因として前年度決算と比較すると 181,070 千円減少し、予算比△48,821 千円の 2,008,609 千円となりました。また、補助金収入については、学生生徒等納付金収入と同様に大学の学生数減少を主要因として前年比 75,663 千円減少し、予算比△16,562 千円の 660,438 千円となりました。寄付金収入については、一般寄付金、特別寄付金等により予算を 19,128 千円上回り 38,128 千円となりました。前受金収入は、大学入学者減少により、予算を 119,050 千円下回りました。

以上の結果、収入合計額は、予算を 115,424 千円下回りました。

(2) 支出の部

資金支出合計は予算を 207,835 千円下回る 3,124,448 千円で、翌年度繰越支払資金 806,210 千円と合わせて支出の部合計は、予算を 115,424 千円下回る 3,930,658 千円となりました。

人件費につきましては、緊急経営改善対策による期末手当の削減等により 2,006,493 千円で前年対比 84,719 千円減少しました。退職者の増加により退職金が前年比 53,124 千

円増加しましたが、教員人件費が 82,511 千円、職員人件費が 52,939 千円それぞれ減少したことによるものです。退職金が予算比 69,519 千円となったことで、予算に対しては 39,564 千円の増加となりました。

教育研究経費支出につきましては、583,437 千円で、旅費交通費、業務委託費等の抑制により、予算を 137,272 千円下回りました。前年対比では 48,979 千円の増加となっておりますが、これはスカラシップによる奨学費増 21,598 千円、電気代高騰にかかる光熱水費増 37,980 千円等によるものです。

また、管理経費につきましては、235,503 千円となり、前年実績を 24,037 千円上回りました。前年比減は人材獲得に係る紹介料、コンサル費用等業務委託費の増加が主因です。借入金利息支出は、前年対比 975 千円減少の 6,685 千円となっております。

施設関係支出につきましては、学生・生徒等の安心・安全で快適な教育環境の整備に努めた結果、17,471 千円となりました。具体的には、高校校舎の LED 照明工事、トイレの改修工事等を実施しました。

設備関係支出は教育研究用機器備品の更新等、環境整備を行った結果、29,735 千円となりました。資産運用支出については、中高体育館の建替えを目的とした減価償却引当特定資産の繰入を継続実施したことから、50,390 千円となりました。

以上の結果、翌年度繰越支払資金は前年対比 175,342 千円減少し、806,210 千円となりました。

2. 事業活動収支について

事業活動収支計算書は当該年度に行った教育研究活動に必要な諸経費の支出と収入から基本金組入額を控除した収支の均衡状態を明らかにし、経営状態を表すもので、企業会計では損益計算書に相当するものです。

(1) 教育活動収支

教育活動収入の合計は、2,931,113 千円で、退職金にかかる雑収入の増加を主因として予算を 19,293 千円上回りましたが、前年対比 267,512 千円の減少となっております。前年対比減少の要因は、学生生徒等納付金収入の減少 181,070 千円、経常費等補助金収入の減少 66,411 千円、寄付金収入の減少 54,678 千円等によるものです。教育活動支出は、予算を 97,665 千円下回り、前年対比 74,178 千円減少の 3,143,558 千円となっております。このうち退職引当金繰入を含めた人件費総額は、前年対比 103,067 千円減少の 1,969,446 千円となり、経常収入に占める人件費比率は 67.1%となりました。教育活動収支差額は、前年対比 193,334 千円減少の△212,444 千円となっております。教育研究経費 932,367 千円、管理経費 240,352 千円のうち減価償却の合計額は前年対比 45,609 千円減少の 353,202 千円となりました

他の収入、支出の内訳については、資金収支と重複しますので省略します。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収入は受取利息・配当金2,938千円で、教育活動外支出は借入金利息6,685千円となり教育活動外収支差額は△3,747千円となっています。

教育活動収支差額を合算した経常的な収支状況である経常収支差額は、前年対比191,834千円減少の△216,191千円となりました。

(3) 特別収支

特別収入は、施設設備寄付金185千円、施設設備補助金5,913千円と現物寄付14,454千円を合計した20,552千円で、動産処分差額1,413千円により、特別収支差額は19,139千円となっています。

(4) 基本金組入前当年度収支差額（経常収支＋特別収支）

基本金組入余力がどの程度あるのかを表す基本金組入前当年度収支差額は、△197,052千円と赤字となりました。

(5) 基本金組入額

学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入れであり、176,787千円を計上しています。過年度に整備した施設の借入金の返済による組入123,880千円や当年度中に行った建物の改修工事等の17,471千円等を組入れたものです。

(6) 当年度収支差額

基本金組入額を加えた当年度収支差額は、△373,839千円で、翌年度繰越収支差額は△11,798,216千円となりました。

3. 貸借対照表について

当該年度末における資産、負債の内容、純資産の額を明らかにするもので、基本金に対する純資産の過不足状態を繰越収支差額として表しています。

(1) 資産の部

① 固定資産

[有形固定資産] は前年対比293,209千円減少しました。

建物： 231,689千円減少

主な要因 当期増加額 17,471千円、当期減価償却額 249,160千円

構築物： 24,348千円減少

主な要因 当期減価償却額 24,348千円

教育研究用機器備品 : 6,007千円減少

教育研究用リース機器 : 33,182千円減少

管理用機器備品 : 1,388千円増加

車両 : 342 千円減少
図書 : 971 千円増加

[特定資産]

減価償却引当特定資産の組入れと第3号基本金引当特定資産の運用収益組入れにより 50,150 千円増加しました。

[その他の固定資産]

貸与奨学金の返済等により長期貸付金が 6,599 千円減少、ソフトウェアが 254 千円増加しました。また、購入により出版権が 220 千円増加しました。

② 流動資産

法人全体では、147,301 千円減少しました。主な要因は退職者増加に伴い私学退職財団等からの交付金にかかる増加を主因として未収入金が 29,356 千円増加したものの、収支の赤字により、現預金が 175,342 千円減少したためです。

以上の結果、資産の部合計額は、前年対比 396,465 千円減少の 9,685,271 千円となりました。

(2) 負債の部

① 固定負債は 190,801 千円減少しました。

主な要因 長期借入金 △134,480 千円 退職給与引当金 △37,047 千円
長期リース機器未払金 △19,275 千円

② 流動負債は 8,612 千円減少しました。

主な要因 未払金 58,428 千円 前受金 △63,371 千円
預り金 △106 千円 修学旅行預り金 △3,527 千円

③ 負債の部合計

199,413 千円減少の 2,354,297 千円となりました。

(3) 純資産の部

① 基本金は当年度組入等により 176,787 千円増加の 19,129,190 千円となりました。

[第1号基本金] 176,637 千円組入増加

固定資産取得増加や 2022 年度中に支払の借入返済および未払金支払に係る組入から除去に伴う基本金額を差引した額

[第3号基本金] 150 千円組入増加

特定資産運用収益を今年度組入れた額

② 繰越収支差額

[翌年度繰越収支差額]

資産合計 9,685,271 千円— (負債合計 2,354,297 千円+基本金合計 19,129,190 千円) = △11,798,216 千円

以上の結果、基本金から翌年度繰越収支差額を減算した純資産の部合計額は、前年対比 197,052 千円減少の 7,330,975 千円となりました。